

会 報

理 事 会 報 告

(平成28年度第2回)

日 時 平成28年9月30日
場 所 東京ステーションコンファレンス
出 欠 出席：理事（37名中30名）鈴木（公）理事長、
門田・永井・藤田（明）常務理事、大崎・鎌田・
藤兼・塩谷・武内・赤川・猪狩・尾形・佐々木・
斎藤・杉山・船山・藤村・鈴木（栄）・小川・
新實・長谷川・一山・鈴木（克）・田中・露口・
松本・磯部・西井・森高・迎理事、計30名。
監事：本間監事。顧問税理士：砂川佳子。顧
問弁護士：石黒保雄。委員長：御手洗委員長。
欠席：須田・巽理事、計2名。八木監事。
委任状：阿彦・梅・大串・藤田（次）・中西
理事、計5名。

報告事項

- I. 事業報告
- II. 委員会報告
- III. 支部活動状況報告
- IV. 第92回総会準備状況
- V. 第93回・94回総会準備状況
- VI. その他

議 案

- 第1号議案 第91回日本結核病学会総会収支決算報告
- 第2号議案 理事選挙について
- 第3号議案 「ガイドライン施行委員会（仮）」について
- 第4号議案 その他

藤田常務理事より会の成立が述べられ、鈴木理事長の司会により開始。平成28年3月、原耕平名誉会員の逝去が理事長より報告され、全員で黙禱。

（理事長）一般社団法人法により議事録の作成が必要ですが、定款第36条により「理事会に出席した理事長及び監事が署名又は記名押印しなければならない」と規定されておりますので、監事の本間栄先生を議事録署名人をお願いします。

報告事項

I. 事業報告（藤田常務理事）

会員数は4,082名。学会誌は第91巻1月号から9月号

まで発行、受付原著数20篇。

II. 委員会報告

1. 編集委員会（永井委員長）

①オンライン査読について：オンライン査読への移行は、過去の理事会での決定事項である。本年度は、J-Stageの投稿審査システムの募集があり、応募した。（昨年度は応募がなかった。）現在、審査中であるが、科学技術振興機構の予算が厳しく、審査は通過しにくいと聞く。J-Stageの査読審査システムは、外部業者へ委託しており、(株)杏林社の ScholarOneがその1つ。J-Stageの審査が通らなくても、ScholarOneのオンライン査読システムを導入したいと考えている。ScholarOneは、呼吸器学会和文誌、内科学会誌、内視鏡学会誌等が利用しており、呼吸器科の医師はよく知っているシステムと思われる。J-Stageの査読システムを経由すると、ScholarOneの費用は、年間約15万円と割安だが、個別に依頼すると初期費用が42万円、年間25万円（50論文/年）。

②学会誌の電子ジャーナル化について：紙媒体をいつ発行停止するか。どのような形で停止するのか、しないのか。次回の理事会までにお考えいただきたい。紙媒体を廃止した学会の話を知ると、連絡事項をどうするのだという意見があり、連絡事項はニュースレター等の形で紙媒体を使用している例がある。今後のあり方を検討していく。

2. 治療委員会（斎藤委員長）

①日本結核病学会の「結核医療の基準」に記載されている標準治療A法、B法からB法を削除し、B法は備考に記載する件：療研に治療委員会が協力する形で実施された研究の結果が「結核」誌に投稿予定になっている。また第92回日本結核病学会総会ミニシンポジウム「高齢者の結核治療：B法の是非」で討論し、結核病学会：結核医療の基準からB法を除いた記載にすることを予定している。

②抗結核薬の副作用に関する指針作成：抗治研、第92回日本結核病学会総会ミニシンポジウム「抗結核薬の副作用の現状—発熱、皮疹、白血球減少について」から得られた知見を基に治療委員会から指針を出すかどうかを検討する。

③MDRTB、肺非結核性抗酸菌症治療に必要な薬剤の公知申請：社会保険委員会へ協力する形で進める。

④デラマニド (DLM) 適格性確認システムの運用について：委員として齋藤、永井、露口、吉山が担当している。2014年9月～2016年7月で登録症例は83例、適正63例、不適正18例（理由：感受性薬不足8、感受性検査不明5、肺外結核2、多剤耐性でない3）、キャンセル2例（理由：NTMと判明1、不明1）。使用開始後に再排菌した例は2例で、微量の再排菌が1度のみでその後は再び陰性化、感受性再検でもDLM感受性は保たれていた。問題となるような大きな副作用は今のところない。感受性薬不足による不適正がもっとも多く、見かけ上は感受性が保たれているように思えても、THやCSなどで既に長期に投与されていて実質は効果が期待できないようなものも含まれていた。以上から同システムは円滑に運用できていると考える。

⑤2年を目処に改訂することが予定されていた2014年7月公表の「デラマニドの使用について」を過去2年間の使用経験を基に改訂する。

⑥ベダキリンの上市に向けて：製薬メーカーの関係者と面談し、デラマニドと同様に学会とは離れた形でアドバイザリーミーティングを開き、その後、デルティバ適格性確認システムの際に締結した学会と同様な契約を結び、上市された際には同システムに上乘せした形でベダキリンの適格性を確認する。

（理事長）Xpert MTB/RIFの要望書を厚労省へ提出し、9月16日承認がおりた。

3. 社会保険委員会（佐々木委員長）

積み残し事案については平成30年度改定に継続して申請する。

平成30年度改定方針案

昨年積み残し事案：Ⅱ類加算の適応拡大。地域DOTS加算（早期退院による医療費削減を視野に入れた申請）。NST加算。MDR手術加算。

新規として考慮中のもの：①TB感染性のある患者への内視鏡（上部、下部消化管、関節）、気管支鏡、胸腔鏡等施行にあたる感染防止加算。②一般病棟に準じた加算の適応 適応拡大：医師事務作業補助者加算、急性期看護補助加算、重症者療養環境加算、緩和ケア診療加算、呼吸ケアチーム加算。③MDR患者加算 新設（入院だけでなく外来への適応拡大）：MDR患者治療指導管理料。

薬剤：MDR-TB：LZD（投与登録承認制）、DLM（全結核対象への変更）、MFLX。TB：AMK、LVFX注射薬。NTM：〔全体〕STFX、LVFX（内服、注射）、AMK、KM。〔菌種別〕INH（*M.kansasii*）、IPM/CS（*M.abscessus*）、AZM（MAC、*M.abscessus*）。

ご意見がありましたら、10月末までに学会を通じてお寄せください。

（理事長）よろしくお祈りいたします。

4. 教育・用語委員会（長谷川委員長）

「用語集」の改訂を行う。

5. 予防委員会（阿彦委員長欠席のため代読）

潜在性結核感染症の治療後の管理方法のあり方について検討した結果を提言としてまとめ、前回5月の理事会で報告した。提言の公表に向けた修正意見がなかったので、報告した提言の内容を、「結核」誌第91巻8号に「潜在性結核感染症治療終了後の管理方法等について」と題して掲載した。併せて、当学会ホームページの委員会報告のページで一般向けにも公表した。また、今回の提言内容を全国の保健所が実践するためには、関連する法令通知の改正が必要なことから、厚生労働省健康局結核感染症課にも情報提供し、法令通知の早期改正を要望した。（結核感染症課からは、厚生労働省令等の早期改正に向けて準備中であるとの回答を得ている。）

6. 非結核性抗酸菌症対策委員会（鈴木克洋委員長）

MAC菌株のフルオロキノロン感受性に関する臨床研究の実施結果を次回総会で報告する。

7. 抗酸菌検査法検討委員会（御手洗委員長）

①AMKの薬剤感受性試験濃度設定に関する検討：AMKの小川培地における適正薬剤濃度を検討するため、L-J培地（AMK 30mg/L含有）と同じ濃度のAMKを含む小川培地を作成し、MDR-TB 92株、非MDR-TB 23株を用いて比率法による判定の一致について検討を行った。両者は耐性・感受性判定で完全に一致した。

②KMの濃度設定に関する検討：世界的にはL-J 30 mg/Lを含有する培地による感受性試験が主流であるが、日本のKM感受性試験濃度は20 mg/Lである。両者による差異を、MDR-TB 92株、非MDR-TB 22株を用いて比率法により検討した。また、検討にはKM 30 mg/Lを含む小川培地も加えた。結果として、L-J 30 mg/Lと小川 20 mg/Lの間で8株の判定齟齬があり、McNemar's testで有意差を認めた。L-J 30 mg/Lと小川 30 mg/Lの間でも4株の判定齟齬があったが、有意差はなかった。

①②の結果より、小川培地によるAMKの感受性試験濃度を30 mg/Lに設定し、同様にKMの濃度を30 mg/Lに変更することを提案する。（承認された。）

8. 将来計画委員会（門田委員長）

今年度の学会賞の応募が芳しくないこともあり、代議員等に引き続きホームページ等で周知していく。今年度の募集期間は本日で終了した。今村賞に関してはAcceptの日付で検討いただきたいとの問い合わせがあった。今村賞の募集要項では「3年以内に本学会の機関誌に掲載された論文を必須とする」という規程があるので、来年度に論文が掲載後、応募いただければよいかとも思うが、今後、将来計画委員会で検討していきたい。

（理事長）将来計画委員会で検討をお願いいたします。

9. エキスパート委員会（鈴木栄一委員長）

今年度の結核抗酸菌症エキスパートの申請は本日受付終了。申請件数は、登録エキスパート66件、認定エキスパート6件（9月29日現在）。エキスパート資格について、地方会開催時に周知をお願いしたい。

10. 認定制度委員会（大崎委員長）

①第91回総会では、エキスパート集中セミナーを実施し、この企画を継続することを認定制度委員会で決定した。第92回総会のプログラム内で、寺子屋塾をエキスパートセミナーに指定する。②第91回日本感染症学会総会・学術講演会、第57回日本呼吸器学会学術講演会内で、来年度も共同企画を実施する。岩田敏会長、中西洋一会長と調整をしている。③ICD講習会企画・立案が終了し、第92回総会会長へ伝えた。④日本結核病学会認定制度は、日本専門医機構の専門医制度サブスペシャリティにのせたい。そのためのワーキンググループとWG内規を作成した。（承認された。）認定制度委員長が、WG委員長を兼ねる。（要綱（内規）を理事会で配布。承認された。）WG委員：大崎能伸（認定制度委員長）、藤田明（前委員長）、三木誠、中村敦、露口一成、永井仁美、森下宗彦（オブザーバー）、太田正樹（アドバイザー）。⑤認定医・指導医の初の資格更新申込みは順調。本年度の申請件数：〔初回申請者〕認定医：96件、指導医：21件、エキスパート66件（内訳：登録60件、認定6件）。〔更新申請者〕認定医：176件、指導医359件（9月29日現在）。

（藤田常務理事）5月開催の理事会でWGの設置は承認されたので、今回、内規という形で要綱を作成した。

11. ホームページ委員会（磯部委員長）

HP掲載内容が盛りだくさんのため、HP業者とミーティングをして整えていきたい。Q&Aの運営を停止している。回答者の負担が大きいため運営方法を検討している。

（藤田常務理事）一般の患者さんから医療機関に問い合わせるような内容の質問が学会に寄せられている。学会として回答するのは難しいので、「個別の質問には答えられません」と、表示しておいたほうがよいのではないかと。製薬会社のHPへのリンク希望についての対応を、HP委員会でご検討いただきたい。HPの掲載作業については、事務局からHP管理会社に依頼している。急ぎ情報を更新する必要がある場合には、理事長、HP委員長からも、直接、HP管理会社へ指示することができるようにしたい。

（理事長）HP管理会社に直接、指示することができるようにする。

12. 倫理委員会（中西委員長ご欠席のため代読）

①出版物について、COI開示をどの程度実施するか：

(1)ガイドラインに限定するか、その他の手引き、マニュアル等についても実施するか→すべてについて実施することとした。(2)開示の内容をどうするか→協議の結果、当面「全体において、個人特定しないかたち」で開示することとした。②開示すべき要件が事務局に届いた場合のメール会議について：メーリングリストを作成し、迅速な審議体制を構築し、運用を開始した。③日本医学会等からの受講要請・決定事項への対応について：可能なかぎり倫理委員から出席することとした。今後、他の学会の規程等も参考にしながら罰則規定等を作成する。④ガイドラインの在り方について：Mindsの推奨等を参考にしたガイドライン作成をする。一方で、エビデンスの集積が不十分な領域では「ガイドライン」という表記はせず、手引きやマニュアル、ガイダンスといったタイトルとする。

13. 診療ガイドライン作成委員会（理事長）

「結核診療ガイドライン」改訂第3版を平成27年3月に刊行した。改訂第4版については、3年ごとに改訂していることから来年4月に執筆依頼を行いたい。書名については、ガイドラインとするには「Minds診療ガイドライン作成の手引き2014」などに準拠した作成が必要であり、今回は現内容を継承して「結核診療ガイド」などを考えている。

Ⅲ. 支部活動状況報告

北海道支部（大崎支部長）

日本呼吸器学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会北海道支部と合同開催。第67回：平成29年2月25日(土) 山本真会長（帯広厚生病院）、札幌市教育文化会館。

東北支部（武内支部長）

日本呼吸器学会と合同開催。第133回：平成28年9月17日(土) 鈴木博貴会長（済生会山形済生病院）、山形市ヤマコーホール。

関東支部（藤田支部長）

日本呼吸器学会と合同開催。第171回：平成29年2月18日(土) 加藤誠也会長（結核予防会）、東医健保会館。第172回：平成29年9月2日(土) 船山康則会長（筑波学園病院）、つくば国際会議場。第173回：平成30年2月猪狩英俊会長（千葉大学医学部附属病院）。第174回：平成30年9月 佐々木結花会長（結核予防会複十字病院）。

北陸支部（藤村支部長）

日本呼吸器学会、日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会と合同開催。第88回：平成28年11月5日(土)・6日(日) 赤井雅也会長（福井赤十字病院）、福井商工会議所。第89回：平成29年5月27日(土)・28日(日) 菊地利明会長（新潟大学）、新潟医療人育センター。

東海支部（長谷川支部長）

日本呼吸器学会，日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会と合同開催。第128回：平成28年11月5日(土)・6日(日) 近藤康博会長（公立陶生病院），名古屋市中小企業振興会館。第129回：平成29年5月27日(土)・28日(日) 樋田豊明会長（愛知県がんセンター中央病院）。

近畿支部（一山支部長）

夏の支部学会は結核病学会，冬は呼吸器学会が主催し，年2回開催している。第118回：平成28年12月10日(土) 陳和夫会長（京都大学大学院），メルパルク京都。第119回：平成29年7月8日(土) 松本智成会長（大阪府結核予防会大阪病院），大阪国際医療センター。第120回：平成29年12月16日(土) 中川和彦会長（近畿大学医学部），大阪国際医療センター。

中国四国支部（礒部支部長）

日本呼吸器学会，日本内視鏡学会との合同開催。第67回：平成28年12月23日（金/祝）宗田良会長（南岡山医療センター），岡山コンベンションセンター。

九州支部（門田支部長）

日本呼吸器学会，日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会と合同開催。第78回：平成29年3月11日(土) 力丸徹会長（福岡山王病院）福岡国際医療福祉学院。第79回：平成29年9月22日(金)・23日(土) 宮崎英士会長（大分大学），別府国際コンベンションセンター。

IV. 第92回総会準備状況（斎藤会長）

会期は平成29年3月23日(木)・24日(金)，会場は，前日の役員会：東京ステーションコンファレンス，1日目・2日目：東京国際フォーラムである。APRC（日本結核病学会総会と同時開催）のHP，第92回日本結核病学会総会HPへのリンクと，総会の会場名を日本結核病学会HPに掲載してもらうように，再三要請している。

（理事長）事務局に伝え，掲載したい。

V. 第93回・94回総会準備状況**第93回日本結核病学会準備状況**（鈴木克洋次期会長）

開催日：平成30年6月23日(土)・24日(日)

第94回総会準備状況（門田次々期会長）

大分で開催する。

VI. その他（藤田常務理事）

本事務所の賃貸契約期限が切れたため，品川駅近くで小会議も開催可能な物件を法人契約した。9月2日常務理事会で承認され，9月10日移転した。

議 案**第1号議案** 第91回日本結核病学会総会収支決算報告

（認められた。）

第2号議案 理事選挙について（理事長）

代議員選挙開票日は11月10日(木)，理事選挙開票日は1月6日(金)，倫理委員会は2月11日(土)である。

選挙施行細則にないため，支部長の数を理事定数に加算する支部，増やさない支部がある。選挙施行細則では「支部長は，職責上，理事を兼ねる」とあるが，議決権を有するのかわさないのか，ご意見を伺いたい。今後，将来計画委員会で検討し，次回の理事会で議題とする。この結果については2年後の理事選挙時から実施する。

第3号議案 「ガイドライン施行委員会（仮）」について（理事長）

日本医療機能評価機構の「結核診療ガイドライン」改訂第3版に対する「評価フィードバックボード」ではエビデンス評価は低く，改訂第4版は委員会報告で述べたように書名を「結核診療ガイド」等にする。今後のことを考え，「ガイドライン施行委員会」を平成29年度設置し，ガイドライン作成の準備をしていく。（承認された。）

第4号議案 その他

（藤田常務理事）委員会報告の著作権使用料について検討していただきたい。委員会報告の著作権は日本結核病学会に属すが，公衆衛生上の必要性による利用や学術利用については無料とするのがよいのではないかと。常務理事会，編集委員会で一定の基準を検討していただきたい。（理事長）検討後，まとまったら，提示していく。

（藤田常務理事）総会に関する申し合わせ（内規）について検討したい。審議の結果，原則として，総会号を学会誌として学会から刊行することとする。（承認された。）

理事会・代議員会へのオブザーバー参加について内規を決めたい。議長，支部長の事前許可を必要とする。議決権は有さない。議長の指示のある場合のみ発言できる。議長は退席等を指示することができる。（承認された。）

（藤田常務理事）学会の名称を変えることに関して意見交換を行った。将来の話であるが，来年の代議員会において相談したい。

（理事長）名誉会員・功労会員にもご意見を伺いたいと思っている。

（石黒弁護士）定款第1条にあるため，定款変更となる。理事会決議後，代議員会決議で変更となる。過去の決定にしばられず，変更できる。

以上で理事会は終了。